

2016年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



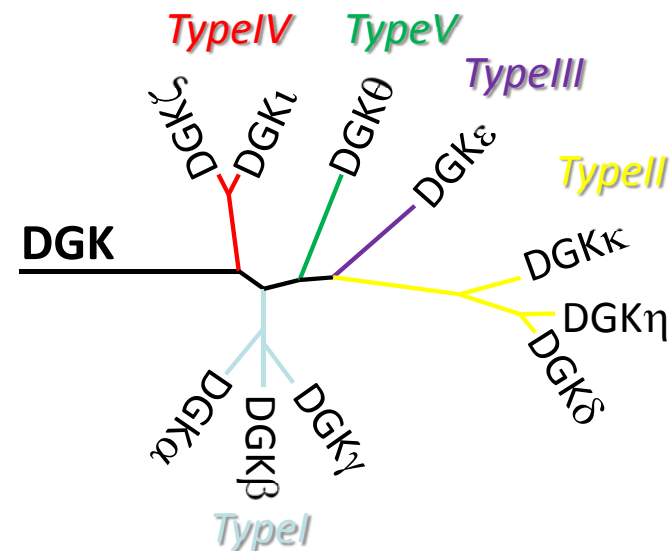
証券コード : 4572

- 脂質キナーゼ DGK 全10種類を新発売（7月）
- ヤンセン・バイオテック社とのライセンス契約の終了のお知らせ（8月）
- サロミクス社が提供する共結晶構造解析サービス並びにイニキシウム社が提供する結晶化グレードタンパクの販売に関するお知らせ（8月）
- 「TNIK Inhibition Abrogates Colorectal Cancer Stemness（TNIK阻害が大腸がん幹細胞性を抑止する）」と題して、当社化合物（NCB-0846）に関する論文がNature Communications に掲載される（8月）

10種類（ビオチン化タンパク含め20製品）を7月1日から提供開始

GST-DGK	ビオチン化DGK
DGK α (DGKA)	BTN-DGK α (DGKA)
DGK β (DGKB)	BTN-DGK β (DGKB)
DGK γ (DGKG)	BTN-DGK γ (DGKG)
DGK δ (DGKD)	BTN-DGK δ (DGKD)
DGK ϵ (DGKE)	BTN-DGK ϵ (DGKE)
DGK η (DGKH)	BTN-DGK η (DGKH)
DGK ι (DGKI)	BTN-DGK ι (DGKI)
DGK κ (DGKK)	BTN-DGK κ (DGKK)
DGK θ (DGKQ)	BTN-DGK θ (DGKQ)
DGK ζ (DGKZ)	BTN-DGK ζ (DGKZ)
計10種類	計10種類

- ✓ DGKは、Immuno-oncology（がん免疫療法）における新しい創薬ターゲット
- ✓ DGKは基質が脂で構造が不安定なためアッセイ系の構築がむずかしく、当社のオンリーワン製品として期待される



DGKタンパク質10種類のシリーズすべてを取り揃えているのは **当社のみ** です。

(2016年9月30日現在：当社調べ)

当社が国立がん研究センターとの共同研究で見出した化合物のがん幹細胞への効果が世界的な学術科学雑誌Nature Communicationsに掲載された。



ARTICLE

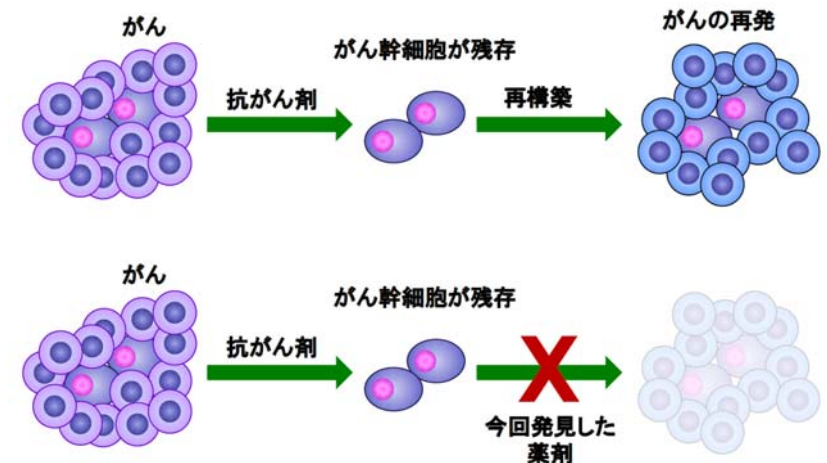
Received 28 Jan 2016 | Accepted 14 Jul 2016 | Published 26 Aug 2016

DOI: 10.1038/ncomms12586

OPEN

TNIK inhibition abrogates colorectal cancer stemness

Mari Masuda¹, Yuko Uno², Naomi Ohbayashi^{3,*}, Hirokazu Ohata^{4,*}, Ayako Mimata^{1,*}, Mutsuko Kukimoto-Niino³, Hideki Moriyama², Shigeki Kashimoto², Tomoko Inoue², Naoko Goto¹, Koji Okamoto⁴, Mikako Shirouzu³, Masaaki Sawa^{2,*} & Tesshi Yamada^{1,*}



<本論文の意義>

- TNIKというキナーゼがWnt シグナルを制御して、大腸がんにおけるがん幹細胞性を調節していることを世界で初めて証明
- 当社が創製したTNIKキナーゼ阻害薬NCB-0846を用いて、がん幹細胞が再び腫瘍を作る働きを抑制できることを実証

第3四半期 連結経営成績の概況



- ✓売上高は、対前年同期比 54.5%減（対前期比695百万円減）
- ✓営業損益は、売上減ならびに研究開発費及びその他販管費増により 334百万円の損失（対前期比918百万円の悪化）
- ✓当期純損益は、営業損益の悪化ならびに特別利益の計上等により 178百万円の損失（対前期比750百万円の悪化）

（単位：百万円）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2016年12月期第3四半期実績 (a)	581	△334	△352	△178
2015年12月期第3四半期実績 (b)	1,277	584	605	572
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△695	△918	△957	△750
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△54.5%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は、当期においてそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(注3) 2016年12月期の創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成27年12月期決算短信をご参照ください。

第3四半期 事業別業績の概況



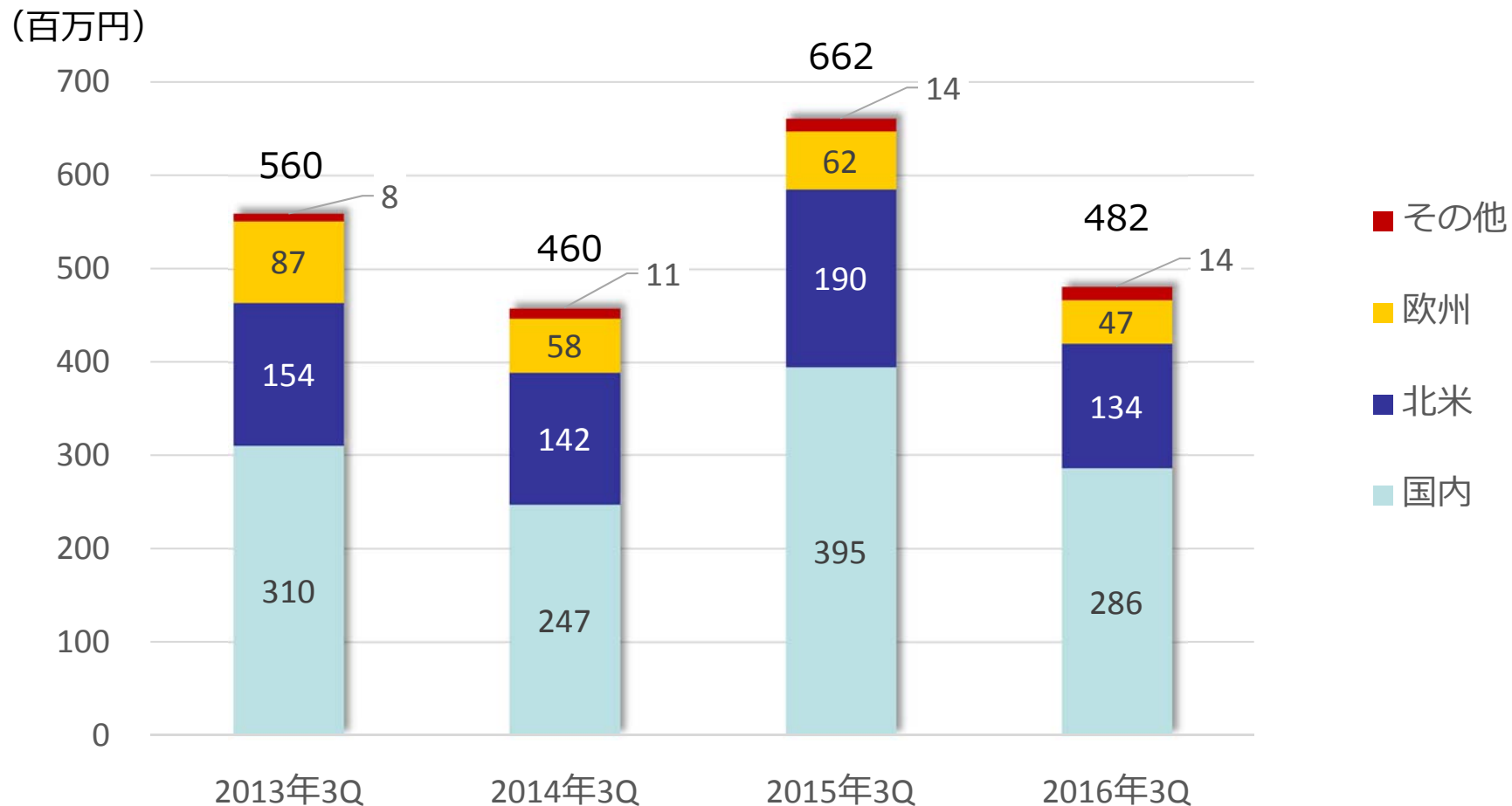
(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2016年12月期 第3四半期実績 (a)	482	98	581	98	△432	△334
2015年12月期 第3四半期実績 (b)	662	614	1,277	307	277	584
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△180	△515	△695	△209	△709	△918
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△27.2%	△83.9%	△54.5%	△68.1%	—	—
2016年12月期 通期計画 (d)	858			320		
通期計画に対する 進捗率 (a)/(d)	56.2%			30.6%		

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 創薬支援事業の2016年12月期通期計画値は、2016年2月12日発表の通期計画に基づいております。なお、創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成27年12月期決算短信をご参照ください。

創薬支援事業 地域別累計売上高推移（連結）



(注) 小野薬品工業向け売上高
 2015年3Q … 237百万円
 2016年3Q … 148百万円

バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2016年12月期 第3四半期末	2015年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,579	1,995	+583	
現金及び預金	2,313	1,624	+688	普通預金+719等
その他	265	370	△105	売掛金△113等
固定資産	79	341	△262	クリスタルゲノミクス社株式売却△274等
資産合計	2,658	2,337	+320	
流動負債	225	235	△10	未払金△30、未払法人税△38、1年内返済長期借入金+76、未払消費税△20、預り金△13等
固定負債	591	231	+360	長期借入金+242、社債+172、繰延税金負債△54等
負債合計	816	467	+349	
純資産合計	1,841	1,870	△28	資本金及び資本剰余金+282、利益剰余金△178、株式評価差額△114、為替換算調整△11等
負債・純資産合計	2,658	2,337	+320	

自己資本比率	69.1%	79.7%
一株当たり純資産	198.85円	208.78円
PBR(株価純資産倍率)	11.84倍	13.04倍
(参考) 当社株価	2,355円	2,722円

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

<がん領域>

➤ CDC7阻害薬

本年5月にProNAi社に導出し、同社において開発中。当社は、ProNAi社へ化合物およびデータの移管を進めるとともに、ProNAi社での前臨床試験がスムーズに運ぶよう技術的協力を実施した。

➤ 国立研究開発法人国立がん研究センター（TNIK阻害薬）ならびに広島大学（TGFβシグナル阻害薬）との共同研究では、がん幹細胞を標的とした画期的な抗がん剤を開発するため、引き続き創薬研究を進めている。

TNIK阻害薬（NCB-0846）のがん幹細胞への効果が世界的な学術科学雑誌Nature Communicationsに掲載された。

<免疫炎症疾患領域>

- ▶ ヤンセン・バイオテック社から戦略上の理由により開発・販売権などすべての権利が当社に返還された化合物について、当社において開発を継続し、新たな導出先の検討を進める。
- ▶ 新たな免疫炎症疾患領域のテーマでリード化合物の創出研究が進行中。

<その他疾患領域>

- ▶ 北里大学と共同で実施している次世代抗マラリア薬の開発も、A-STEPの研究成果最適展開支援事業として、順調にリード化合物の最適化を推進中。
- ▶ その他の前臨床候補化合物を獲得するまでの最適化段階にあるテーマに関しても、研究を着実に進め、創薬パイプラインの強化を図る。

- DGKの拡販を図る
- 北米における大型スクリーニング受託の獲得（DGKなど）
- e-コマースサイトの立ち上げ完了（北米）

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。